

【音楽科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- リコーダーや鍵盤ハーモニカのコロナによる指導制限があった4年・6年については短いフレーズを楽曲に取り入れながら、徐々にできることを増やしてきた。
- タブレットの活用により、自分の演奏を動画で振り返ることができ、自ら気付いて自主的な活動につながった。また、鑑賞学習での気付きや感想・イメージなどをタブレット画面での共有化により、短時間でも効果的に協働的な学びをすることができた。また、言葉でも伝え合う場面も大切にしながら、児童の考えを広げていった。

2 学習状況の分析と課題

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------|---|---|---|
| 学習状況の分析 | 低学年は、音楽の特徴に気付き、拍の流れによって音楽表現を楽しむために必要な技能を身に付けている。中・高学年は、音楽の仕組みに気付き、表したい音楽表現をするための必要な技能を身に付ける児童が増えている。 | 低学年は、音楽の特徴からそのよさや面白さを感じ取って聴いたり、表現を考えて工夫したり、することができる。また、中・高学年は、曲全体の構成から曲の山や変化を捉えて、どう表現したいか音色や奏法に思いや意図をもち、演奏しようとする姿が見られる。 | 低学年は、友達と共に楽しんで音楽活動をしようする姿が見られる。中・高学年は、教え合ったり自ら気付いたりしながら技能を高め、全体の中のパートの役割や、互いのバランスなどをよく考え、よりよい演奏にしようとする主体的に取り組む姿が見られる。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染症対策のための制限解除3年目となり、吹く活動（鍵盤ハーモニカやリコーダー）が制限中だった4年生（鍵盤）と6年生（リコーダー）が、短いフレーズで負担なくハーモニーを楽しめ、楽器演奏を楽しめる環境づくりを目指す。 ・音楽で感じ取ったことを言語表現する学習活動では、共通事項を手掛かりにして音楽の言葉で表現することができるよう低学年から計画的に指導することが必要である。また、タブレット端末を活用して児童が友達の考えを共有したりより自分の考えを深めたりすることができるよう、授業の展開を工夫する必要がある。 | | |

3 授業の具体的な改善策

| | |
|-----------------|---|
| 教科目標 | <p>学習指導要領の教科の目標</p> <p>表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造などに関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感情を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。</p> |
| 全体 | <p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</p> <p>○主体的に音楽活動を行えるよう、自分のめあてをもち、表現できるよう指導する。</p> <p>○どんなふうに演奏したいのか思いをもてるように既習の内容を生かした授業を行う。</p> <p>○対話的で深い学びになるように児童が、互いの演奏を聴き合うことでアドバイスし合ったり、めあてが達成できているかICTを効果的に活用したりすることで自ら確かめられるようにしていく。</p> |
| 学年段階別改善策 | |
| 低学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・リズムを模倣したり、楽器を演奏に「音楽遊び」を取り入れたりとしながら、歌唱や器楽の技能を高めていく。鍵盤楽器や打楽器を使用したりリズム遊びを行ったりしながら、基礎基本の定着を図る。（知識及び技能） ・鑑賞活動や身体表現、リズム遊びなどにおいて、多様な楽曲を取り入れることで、その曲想の違いを感じ取れるようにする。また、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて言葉や動作で表し、楽曲や演奏の鑑賞活動で楽しく伸び伸びと表現できるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ・身体表現やリズム遊びを取り入れて、より多くの学習体験ができるようにする。声や音を重ねて演奏する楽しさを味わえるようにする。（主体的に学習に取り組む態度） |
| 中学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・曲の仕組みを考え、旋律を味わって表現できるような楽曲を多く取り入れて、音楽表現するための技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ・鑑賞と音楽表現を結び付けて、聴き取ったことや感じ取ったことを他の児童の意見を参考にして考え方を広げたり深めたりすることができるようにする。また、思いや意図をもって、音色や強弱などの工夫をしていく。（思考力、判断力、表現力等） ・楽曲を通して、音の重なりを味わいながら演奏を楽しみ、主体的に音楽活動を行っていけるようにする。（主体的に学習に取り組む態度） |
| 高学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・今までの経験を基に楽曲を分析して、音楽表現できるよう技能を高めていく。（知識及び技能） ・鑑賞と音楽表現を結び付けて、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを、共通事項を手掛かりに言語表現できるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ・楽曲を通して、互いの役割に合った音の重なりバランスなどを考えて演奏を楽しみ、主体的に音楽活動を深めていけるようにする。（主体的に学習に取り組む態度） |